

平成26年度第9回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成27年2月24日（火） 午前10時30分～12時00分
- 場 所： 京都市立病院 5階会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 桑原 安江, 大森 憲,
位高 光司, 山本 壯太, 能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

1 開会

2 議事

(1) 平成27年度京都市立病院機構予算案骨子について

- 市立病院の年間外来患者数の見込みが平成26年度計画よりも減少している理由は。また、平成26年度の実績は。
 - ・ 高度な急性期病院として、地域の医療機関との連携を進め、重症の患者さんを中心に診療を行う。また、診療日数が1日分少ないことも考慮して算出している。
 - ・ 平成26年度の外来延べ患者数は、第3四半期までの目標221,000人に対して、実績は226,000人となっている。
- 給与費の増加は、医師の増員を予定しているのか。
 - ・ 医師は充足している。看護師、リハビリスタッフなど計10名の増員を予定している。
- 材料費と経費の比率が高いのではないかと。
 - ・ 医業収益に対する材料費率は同レベルで設定している。
 - ・ 経費の増加要因は、検体検査の検査項目増加による委託料増加、及び病院総合情報システムの更新に伴う臨時的な支出によるものである。
- 病院総合情報システムの更新は、翌年度以降の材料費や経費の削減等の効果があるのか。
 - ・ 医療の質の向上と効率化を目的としている。業務の効率化により、経費削減効果もある。
 - ・ ひとつひとつの業務の見える化が進むなど、収益性の向上にも繋がる。
- 京北病院について、外来の患者数の見込みを減らし、訪問を増やしている。訪問に重点を置くという今後の京北病院における地域医療への姿勢を反映しているのか。
 - ・ 京北地域は、人口減少社会に突入している。また、高齢化は京都市中心部よりも進んでおり、地域包括ケアシステムについては、先行して確立されることが期待されている。地域包括ケアシステムを支える仕組み（在宅医療・地域包括ケア病床・在宅療養支援病院など）を構築していかなければならない。
 - ・ なお、市立病院がある京都・乙訓医療圏については、厚生労働省の長期予測では、高齢化に伴い、2040年まで医療需要は増加する。このことを見越して、市立病院の計画を策定している。
- 通所リハビリテーションの延べ患者数が26年度計画と同数である理由は。
 - ・ 設備や人員の体制によるものである。

3 報告

(1) 第3四半期決算及び取組状況について

- 市立病院における営業外収益のその他は何が該当するのか。
 - ・ 駐車場や利便施設などによる収益である。
- 紹介率と逆紹介率は順調に伸びているのか。
 - ・ 全国の地域医療支援病院と比較すると、まだ低い水準である。紹介率80%、逆紹介率60%が理想的であり、次期中期計画でも目標を示している。
- 新規がん患者数は増加しているが、がん患者治療延べ件数が減少しているのはなぜか。
 - ・ 「がん治療」の定義が変更され、これまでがん治療とされていた治療が対象外になるなどしたことの影響を受けている。
 - ・ 患者の形態は変化していない。
- 救急車搬送受入れ患者数が大幅に増えている。
 - ・ 高齢化に伴い、今後も救急車搬送件数は増えると見込んでいる。
- ドクターヘリは受入れるのか。
 - ・ 現在は消防ヘリのみ受入れている。ドクターヘリの受入れ実績はないが、ドクターヘリの受入施設として新たに指定されたところである。
- 地域連携クリティカルパスとは何か。
 - ・ 地域の医療機関と連携して実施する治療計画のことで、病診連携を進めるツールである。主として、がん、脳卒中、大腿骨近位部骨折がある。
- 人間ドック件数はどうか。
 - ・ 施設に見合った受診者数であると認識している。

(2) 経営状況月次報告について

- 市立病院の運営は堅調で、年末年始の連休の対応が功を奏している。
 - ・ 病床利用率が高く、収益も過去最高とはなったが、入院診療単価が下がっている。診療密度の低下が課題である。
 - ・ 救急部門からの比較的軽症の入院が多かった時期でもあった。
- 今年度の収益について、前年度を上回る状況が続いている。
 - ・ 平成26年4月の診療報酬改定の影響によって一見増えている。
 - ・ 今年度の予算数値にはまだ及んでいない。
- 入院診療単価の目標は。
 - ・ 中期計画における平成30年度の計画値は68,000円としている。
 - ・ 今年度は、内科系患者比率が増加し、外科系患者が減少していることや手術件数の減少により伸び悩んでいる状況が秋から続いている。

(3) 平成26年度入院満足度調査結果について

- 質問内容を変更したとのことだが、どのように変えたのか。
 - ・ 物理的に対応が困難なハード面の質問（病室の広さなど）から、ソフト面（清潔さや明るさなど）の質問へと変更した。
 - ・ 昨年度、今年度については建物が新しくなったことが、満足度の上昇にもつながっている。今後、低下しない努力が必要である。
- 回収率が昨年より下回っているが、アンケートを行うタイミングはどうか。
 - ・ 病棟によって異なるが、入院時に渡すことが多い。すべての病棟に回収箱を設置し、

いつでも投函できるようにしている。

- ・ 配布するタイミングを退院前にするなど患者の状況に配慮したものとなるように検討する。
- 全体的な評価は高いが、医師の評価において、治療方針説明が「理解できず」「あまり理解できず」が3%、不安や不信感が「ときどきあった」が3%存在している。0%でなくてはならない項目である。

4 閉会